



通信 i・ストリーム (法人版) VOL. 25



こんにちは、一雨ごとに気温が下がり、冬が近づいてきているのを感じさせます。文：小川 康成
 インフルエンザも流行の兆しを見せておりますが、予防接種されましたか？ ファイナンシャル・プランナー
 さて、10月の消費税増税から1カ月以上が経ちましたが、業種によって、明暗が分かれてきているようです。前半は少し景気の動向について、後半は自然災害の影響について考えてみたいと思います。

「街角景気」景気ウォッチャー調査 10月

全国 36.7 (前月比-10.0ポイント) **大幅悪化** ▼ (内閣府発)

調査は、地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々の協力を、地域ごとの景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とすることを目的とし、「家計動向関連」「企業動向関連」「雇用関連」に分けて算出しています。



特に「**家計動向**」が前月9月比-12.7ポイントと大きく悪化しており、とりわけ「**小売り関連**」は-18.2ポイントと大きく後退しました。その他に「**飲食関連**」-7.5ポイント(35.1)と低水準であり、増税をきっかけに家計の紐が引き締まってる様子がうかがえ、前回の消費税増税の時よりも、より低い数字です。
 東海地方は、38.0(前月比-8.6ポイント)

日銀短観では「東海地方の景気は拡大している。」

(2019年9月調査)

日銀短観とは正式名称を「全国企業短期経済観測調査」といい、統計法に基づいて日本銀行が行う統計調査であり、全国の企業動向を的確に把握し、金融政策の適切な運営に資することを目的としています。全国の約1万社の企業を対象に、四半期ごとに実施しています。

個人消費は緩やかに増加傾向、生産は一部に弱めの動きがありますが、全体としては増加基調となっています。

しかし詳しく見てみると、工作機械の受注は前年同月比37%減、13カ月連続マイナス。輸出だけではなく、国内の需要も大きく減っています。輸出に関して、中国が-10.3% 米国が-11.4% 減少と自動車関連を中心に大きく数字を下げています。



大企業寄りの発表になる「日銀短観」が9月調査、街角景気と呼ばれる「景気ウォッチャー」が10月調査となっていることを考慮しても、大企業と個人でのとらえ方に大きく乖離が有る事が見て取れます。

12月の日銀短観が要注目ですね。

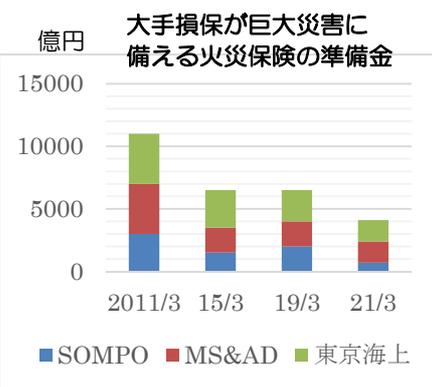
自然災害が相次ぎ損害保険会社の災害準備金、半減

11月20日の日本経済新聞で、大手損害保険会社3グループの災害準備金（異常危険準備金）が大幅に減ってきていることが大きく取り上げられました。異常危険準備金とは、大規模な自然災害などに見舞われても保険金が支払えるよう保険会社が、保険料収入の一部を積み立てている資金のことです。2005年の台風被害の拡大を受け、損保大手は1959年の伊勢湾台風規模の災害に耐えられるように火災保険の準備金を増やしていましたが、ここ数年の巨大台風などにより保険金支払いが歴史的な高水準となり急減し、2年半前に比べて半減する見通しとなるそうです。

これは、相次ぐ自然災害が損害保険会社の経営に大きなダメージを与えていることを示し、経営の安定がきしみ始めたとも言えます。

ここ7～8年は各保険会社ともに「火災保険」（台風や水害・津波・地震災害を含む）の分野では赤字基調であり、今後の値上げは避ける事が出来ない状況のようです。

逆に考えれば、リスクコントロールのスペシャリストである、損害会社のデータ分析でも分析しきれない大災害が近年多発しているという事になり、その意味で経営者の皆様は災害に備えたBCP、サプライチェーン網、災害休業時の復旧までの給与・地代等の固定費の確保（休業費用）など、プロでも想定を超える事態が頻発していると認識して、事前の対応を検討しておく必要があります。



災害による保険金支払金額					
順位	年	災害名	地域	発生日月	億円
1	H23	東日本大震災	宮城・福島・茨城	2011年3月11日	12,833
2	H30	台風21号	大阪・京都・兵庫等	2018年9月3日～5日	10,678
3	H3	台風19号	全国	1991年9月26日～28日	5,680
4	H16	台風18号	全国	2004年9月4日～8日	3,874
5	H28	熊本地震	熊本・大分	2016年4月14日	3,859
6	H26	2月雪害	関東中心	2014年2月	3,224
7	H11	台風18号	熊本・山口・福岡等	1999年9月21日～25日	3,147
8	H30	台風24号	東京・神奈川・静岡等	2018年9月28日～10月1日	3,061
9	H30	7月豪雨	岡山・広島・愛媛等	2018年6月28日～7月8日	1,956
10	H27	台風15号	全国	2015年8月24日～26日	1,642



上記表は日本損害保険協会の災害データを基に過去の災害支払い額の大きな10災害をまとめたものです。特徴的なのは全ての災害が平成に入ってから発生しており、特にここ数年は被害額が大きい事が分かります。

多分、皆さんの記憶に、東日本大震災の被害は大きいと思いますが、表にあるよう平成30年中に起きた台風など水害の保険金支払総額は、それを越えています。少し前までは大きな災害＝地震でしたが、今では台風や豪雨も警戒が必要となりました。

また、地震は冬～春に発生しやすい傾向があるようですので、これからの時期は、特に地震発生に警戒が必要です。